



白桜小だより

平成 28 年度 6 月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 28 年 6 月 1 日 発行

「運動会に確かな成長を見る」

校長 宇賀神 佳子

5月28日(土)第8回の運動会が開催されました。各学年の練習は連休が明けたころから徐々に始まりましたが、「子供たちはどんな様子で取組んでいるのだろう」と興味が高まったので、私はその練習風景を見て回りました。

一番印象的だったことは、子供たちが本当に熱心に動きを身に付けようとしていたことです。リズムカルでスピード感のある表現内容が多く、学年で取り入れられていましたが、休み時間などでも「もっと踊りたい」とか「練習してもいいですか」と子供たちの方から申し出るなど、主体的に取り組もうとする高い意欲が見られました。当日は、体を一杯に動かしただけではなく、隊形移動や学年全体でのまとまりにも、子供たちの練習成果を感じ取ることができました。最高学年である6年生は、「白桜」と記された法被を着ての演技でしたが、「学校の伝統を着実に継承する」と、そんな気構えすら感じさせる姿で、達成感に溢れたその表情に、参観の方々からたくさん拍手が寄せられました。どの学年の子供たちも、「自分の踊りを踊り切る」様な、生き生きとした表情や動きで表現できたことが、素晴らしいと思いました。

また徒競走では、前を向いてゴールまで走り切ることや、腕をよく振ること、カーブを曲がりきることを重点に置きながら指導が進められていましたが、当日は、どの子供も真剣な表情で駆け抜けていく姿が見られ、特に高学年リレーでは一点差のところでの競技となったので、その走りは圧巻でした。走り終えた子供の表情は、全力を出し切った満足感で一杯の様子でした。早朝から練習に取り組んでいた成果が、ここに生きていた感じがします。

5、6年生の子供たちは、運動会の運営にも携わりました。応援団長は赤・白それぞれの組をまとめるためにきびきびと動いており、やる気が伝わりました。応援の際にはどの子供もよく声を出し、応援歌などの掛け合いは、校舎に反響して曇天を突き抜けていくようでもありました。子供たちと教員とが本当に楽しそうに歌い応援する姿に、私も心が弾みましたし、審判係や準備係をはじめ、係りとして運動会を支えた経験が、大きな自信につながることを確信しました。

「行事が子供たちの成長を促す」という言葉がありますが、日常の学校生活とはまた違う成長の機会を通して、子供たちの新たな一面が啓かれたような気がしています。集団の中での役割と責任を果たすことが、子供の成長につながってくると改めて実感できました。

当日は、多くの地域の方々にご来校ご参観いただき、白桜小に寄せていただく期待を感じました。また、運動会終了後の片づけには、たくさんの方々に進んでご協力いただいたことにも感激しました。こうした皆様の思いに応えるつもりで、教育活動を推進してまいります。本当にありがとうございました。今後とも子供たちの健やかな成長を目指して、白桜小学校の教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。